

特集

上峰町伝統の

秋祭り

地域の中で長く受け継がれ、今もたくさんの伝統行事が行われています。

今回の特集では、その中でも8月・9月に開催された代表的な祭りをご紹介します。

その1

江見沖神事

9月8日(日)江迎地区が神事を担当

(江見の十二日)

会場 江見八幡宮

江見沖神事は江見八幡神社(みやき町)の秋の大祭で、旧暦の8月12日に合わせ、有明海の淡水の恩恵を受ける7つの地区が輪番制で神事を行っています。

100年以上の歴史あるお祭りで、今回は西乃宮八幡宮の氏子である江迎地区の皆さんが神事を担当しました。

9時に西乃宮八幡宮で神事を行うと、神様を神輿に乗せて江見八幡神社を目指してお下りします。行列の先導を歩くのは祭りの責任者の当人(頭人)で、当日の朝に筑後川でくんだ水を清め水として、道にまきながら進みます。

「秋に入っの最初の一大イベントとあって、子どもの頃から祭りが来るのが楽しみでした。秋の実りを祝う大切な祭りですから、その神事を担うとあって、7月には境内の掃除など、準備を行ってきました。若い人の確保が難しいですが、これからも大事に続けていきたいです」と笑顔の中山区長。

江見八幡宮で神輿は舞台におろされ、会場では上峰太鼓やよさこい踊りなどが力強い演奏とともに披露されました。午後に神輿は西乃宮八幡宮にお上りし、祭りは幕をおろしました



取材協力

江迎地区
なかやまよしゆき
中山義行 区長

その2

9月8日(日)上坊所地区で開催

どじょう籠り

会場 乙宮神社

稲刈りなど農作業が忙しくなるのに備え、お堂にこもってどじょう汁を食べて滋養をつけたのが始まりと言われる「どじょう籠り」。昔は田んぼに罾をかけ、捕まえたどじょうで作っていたそうです。今はどじょうを捕まえるのが難しいため、取り寄せて継続しています。

どじょう籠りの当日、数人の女性たちが近くの公民館で約30人前のどじょう汁作りに励みます。

乙宮神社では、11時に地域の皆さんが集まり神事が行われ、その後には、お百度参り、子ども相撲、汐汲みのいずれかが行われており、今年は参加者全員でお百度参りを行いました。

渡邊区長は「本来は五穀豊穡を願う祭りですが、地区の皆さんが一堂に集う大切な機会となっています。次世代につなぐことが私の責任ですから、これからも大切に守っていききたいです」と力強く話します。

どじょうやみずいもなどがたっぷり入ったどじょう汁。地区の皆さんは懐かしい味に舌鼓を打ちつつ、子どもの頃の思い出話に花を咲かせていました。



取材協力

上坊所地区
わたなべのぶとし
渡邊信利 区長

愛情たっぷりの
美味しい
どじょう汁が完成!



お百度参り



豆茶講

8月は、各地区の観音堂に地区の女の子たちが集まり豆茶講が行われました。

地区の家々から空豆や大豆で煮豆や炒め豆をつくり、夕方から提灯、灯明をともし、地区の人々が参拝に訪れると、お茶の接待をして豆をお土産にします。

かつては、すべての地区で行われていましたが、今では中村、九丁分など7地区で行われています。



船石地区の
豆茶講



八枚地区の
豆茶講